

13 英語において元位置whが許される環境

● 元位置whとは

(1) の wh要素 (what kind of desserts) は、動詞の目的語として解釈されるが、節頭位置で発音される。生成文法では、これを wh要素が節頭位置へ移動した結果として捉える。また、英語の wh要素は常に節頭位置へ移動するわけではない。例えば、(2) の wh要素を複数含む**多重疑問文 (multiple question)** では、whatは節頭位置ではなく、動詞の目的語位置で発音される。(2) の whatのような節頭位置へ移動しない wh要素を**元位置wh (wh-in-situ)** と呼ぶ。

- (1) What kind of desserts did you make __? (2) Who bought what?

本稿では、英語において元位置whが可能な環境をみていく。

● 元位置whという選択肢を持つ言語と持たない言語

元位置whという選択肢を許すか否かという点において、世界の言語は多様性をみせる。(1) のような wh要素を1つしか含まない疑問文についてみると、ブルガリア語のような wh要素が常に節頭位置で発音されなければならない言語がある一方で、日本語（や中国語）は「太郎は誰に会いたいの？」といった wh要素が元位置whとして留まる疑問文を許す。

wh要素を複数含む多重疑問文に目を向けると、さらなる言語間の違いがみられる。(i) 全ての wh要素が節頭位置で発音される言語 ((3) に例示するブルガリア語など), (ii) 全ての wh要素が元位置whとして留まることが可能な言語 ((4) に例示する日本語など), (iii) 節頭位置で発音される wh要素と元位置whが混在する言語 ((5) に例示する英語など) がある。

- (3) Koj kogo običa?

who whom loves

‘Who loves whom?’

(Bošković 2002: 354)

- (4) 昨日誰が誰に会ったの?

- (5) Who loves whom?

英語は wh要素が節頭位置へ移動する選択肢と元位置whとして留まる選択肢の両方を原理上もつ言語といえる。そうすると、「英語では、どのような環境で元位置whとして留まるという選択肢が選ばれるのか」という問い合わせが生じる。

●英語において元位置whという選択肢が選ばれる環境

まず、wh要素を一つだけ含む疑問文において、元位置whが可能な環境を見てみよう。そのような環境の一つは、(6B)に例示する**問い合わせ返し疑問文 (echo question)**である。(6B)の問い合わせ返し疑問文では、(6A)で与えられた情報であるa shunkが聞き取れずに、whatを用いて問い合わせ返している。

- (6) A: Mary ate a shunk. B: Mary ate WHAT? (Pires and Tayler 2007: 202)

また、(7B)のような疑問文でも元位置whが可能である。(7B)の疑問文は、(7A)の先行文の存在により、答え(デザート)の選択肢が話者と聴者の間で共有されているという点において、wh要素が節頭位置で発音される(1)の疑問文とは異なる。

- (7) A: I made desserts. B: You made what kind of desserts? (ibid.: 203)

wh要素を一つだけ含む疑問文における元位置whの(不)可能性は、話者と聴者の間で共有される情報が鍵となる(Pires and Tayler 2007参照)。

wh要素を複数含む多重疑問文に目を向けると、元位置whとして留まる要素について、次の優位性効果がみられる。(i)修飾要素のwh要素(how)と目的語のwh要素(what)があると、目的語のwh要素が元位置whとして留まる((8)参照)。(ii)同一節内にある主語のwh要素(who)と目的語のwh要素(what)については、目的語のwh要素が元位置whとして留まる((9)参照)。

- (8) a. How did Bill read what? b. *What did Bill read how? (Dayal 2006: 278)

- (9) a. Who read what? b. ?*What did who read? (ibid.: 293)

また、この優位性効果も絶対的なものではない。例えば、(ii)の優位性効果はwh要素がwhich句の場合には見られず、目的語のwh要素(which book)が移動して、主語のwh要素が元位置whとして留まることが可能である((10)参照)。

- (10) Which book did which man read? (ibid.: 293)

さらに、優位性効果にかかわらず、(11)に示すように、the hellが後続するwh要素は元位置whとして留まることができない(Pestesky 1987b参照)。

- (11) a. Who read what? b. *Who read what the hell?

このように、英語においてwh要素が元位置whとして留まるか否かは、複数の要因に左右される。

●まとめ

英語はwh要素が元位置whとして留まるという選択肢を持つ言語であるが、wh要素が常に元位置whとして留まるわけではない。元位置whには複雑な使用制限が課せられている。
(木村 博子)